

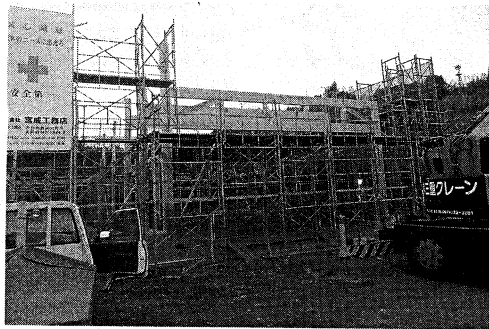
県産材で木造消防署建設

西分署に続き2例目

大分県豊後大野市

大分県豊後大野市は消防署東分署を大分県産材を活用した木造で建築し、運用を始めています。木造2階建てで、ホース塔などの付属建物を除く延べ床面積は306平方メートル。市内消防署の木造化は西分署に続き2例目になるが、九州では今まであまり例がない。同市ではそのほか、朝地小・中学校なども木造で建築されている。

旧東分署は鉄筋造 祭事などで利用していた市有地へ移転した。工期は昨年9月〜今年3月中旬。原料となる木材は、すべて大分県産材を使用。土台の桧以外の主要構造部材は杉集成材を使用し、その総使用



建設途中の東分署。完成後の外観は一般的な消防署と変わらない

量は28・67立方メートル、製造は山佐木材が担当した。そのほか、大断面を必要としない柱・梁

や造作材の供給は西岡商会が担い、設計・監理はアルカイック、施工は宮成工務店が担当した。消防車を入れるため車庫に大断面集成材を使用し、建物の保守性・耐久性向上を理由に外装には金属板、内装は石膏ボードにクロスを張って仕上げた。

建築費用は電気・機械設備工事などを含め約7400万円です。今回もRC造より割安になったのではないかと、市担当者もまた消防署を木

造で建てることに關し、耐火性などを不安視する意見は出なかった。市建設課担当者は、今後の市内公共建築物

の木造化について「建物の用途などを踏まえたうえで、可能な限り積極的に木材を取り入れていきたい」と話した。

日刊木材新聞

2015年(平成27年)9月12日(土)